

## イエス様の居場所(ルカ 2:42-52)

神様の恵みにより、私たちはイエス様を信じ、信者として新しい人生を歩くことになりました。なのに、さまざまな問題を抱えて悩み、さまよい、そして苦しむときもあります。その信者にあるさまざまな問題というのは、今までの問題と同じ性格のものではありません。信者である限り、その問題はその人が信じているイエス様の居場所を正すために、神様が許された旅程であるということをぜひ覚えていただきましょう。なので、信者としてどういう問題があろうが、その問題につまずき倒れることがないように、自分が信じているイエス様が自分にとっての位置づけはどこなのかということ問いかけ、また確かめていかなければなりません。そのために神様が許された旅程であり、神様の導きなんだということを常に覚えていただきましょう。

今日の聖書を見ますと、イエス様の家族が毎年過越しの祭りのときにはエルサレムに行ってイベントに参加していました。そのすべてが終わって、家族は自分の家ナザレの方に戻ったわけです。しかし、イエス様は(当時 12 歳でしたが)そのまま神殿に上って教師たちとフォーラムをしていたわけです。両親はそれに気づかないまま一日の道のりを行った後、イエス様が見つからないので、どこにいるのかと探し回って、またエルサレムに戻ってずっと探して、3 日目にイエス様がエルサレムの神殿で教師たちと議論している様子を見たのです。そこで母マリアはイエス様に「何をしたのか。父親も私も心配したじゃないか。あなたを探してずっと回っていたんだよ」と話したら、普通はこのような返事は生意気なのです。「そうですね。ごめんなさい」というのが普通です。しかし、イエス様は、なぜわたしのことを探し回っていたのですか。私がここにいるということを知らなかったのですか。わたしは父の家に、つまり、神の神殿にいるということが当たり前で当然なのに知らなかったのですかと反論したわけです。それからイエス様は、家族と一緒にナザレに戻って、少年、青年の時間を過ごすことになります。これを見て、母マリアも父親も、イエス様が生まれる前から天使を通してイエス様がどういう方なのかを知らされていて、賛美を捧げていたにもかかわらず、実際、イエス様が生まれて育てながら、たぶんオムツを取り替えたり、離乳食もあげたり、乳、おっぱいもあげたりしてイエス様を育てていたと思います。そういう中でうっかりイエス様のことを勘違いしていたのではないかとということがこの聖書の箇所を通して読み取れるわけです。イエス様がおっしゃいました。少年だったのですが、私がいるべきところはここである。それを知らなかったのですかと。そして、イエス様がおっしゃることの意味が全く分かっていなかったと、聖書はそのように記録しています。だからイエス様を探しに探して、ずっと心配しながら回っていたことになりました。ここで私たちは、イエス様の居場所は何なのか。彼らはイエス様の居場所を知らないで、また勘違いしていたということが読み取れるわけです。

### 1. イエス様の居場所を勘違いしていると迷いは終わらない。

なので第一に、私たちが信者でありながらも、イエス様の居場所を勘違いしていると人生の迷いは終わることがないということを確認することができます。

彼らはイエス様をずっと探し回っていました。それはさまよい続けることであり、迷うことなのです。なぜかと言いますと、イエス様がどこにいらっしゃるべきなのかということを知らないでいたので、勘違いしていたので、そういう結果になってしまいました。

#### 1) 人間の常識の中に

先ほども申し上げましたように、たぶん人間の常識の中にイエス様の居場所を求めていたかもしれません。子どもとして赤ちゃんとして自分が産んで育てていたのが、イエス様を普通の人間として見ていたかもしれません。自分の子どものように見ていたかもしれません。世の中でもイエス様のことを人の常識の中にその居場所を求めると、人間的な姿しか見えないので、イエス様のことを四大聖人の一人とか言うわけです。また、イエス様を英雄扱い、ヒーロー扱いする場合もあるし、キリスト教という宗教を作られたその創始者のような理解、扱いをする場合があるのです。その他にも、イエス様の人間的な姿だけを見

て、いろいろな勘違いをする場合があります。それはイエス様の居場所を間違えていることだし、勘違いしていることなのです。

## 2) 自分の問題の中に

また、信者でありながらも残念ながら、自分の問題の中にイエス様の居場所を求めると、イエス様のことを勘違いすることになります。それでイエス様がカイザリヤ、ペリポの地方で弟子たちに質問をしたときにそのような返事がありました。みなが自分の問題の解決のためにという目でイエス様のことを見てるので、イエス様のことをバプテスマのヨハネだという人がいたり、エリアのような人だ、エレミヤのように見る人もいるし、預言者の一人として見る人もいるわけです。なぜなのでしょう。イエス様のことを自分の問題の中にその居場所を見ようとしてるからです。とにかく自分の問題がすべてなのです。自分の問題の解決のためにイエスは存在してるかのように。自分の問題で解決にイエス様の居場所があるかのように思うと、イエス様のごことは勘違いして探し回るような迷い続けるようなことがずっと続くわけです。

## 3) 自分の願いの中に

その結果、結局、自分の願いの中にイエス様の居場所を求める場合があります。信者でありながらも、自分願ひというのはどこから生まれたものなのでしょう。神様を離れて以来、自分中心であり、目に見える肉の豊かさを中心にして、この世の成功などを中心にして、それに願ひを込めているわけです。その願ひを叶えてくれる方として、自分の願ひの中にイエス様を迎え入れて、そこに居場所を設けようとするわけです。そうすると、イエス様は自分の願ひを叶えてもらうための方として、位置づけがそういう風になってしまうのです。イエス様の肉の両親、家族の方々がイエス様の人間的な姿を見て、イエス様のごことを勘違いし、イエス様の居場所がどこなのかこんがらがってしまった結果を私たちは見てるわけです。

## 4) イエスを信じてても宗教生活に

このようにイエス様の居場所、イエス様の位置づけを勘違いしてしまうと、イエス様を信じたとしても宗教生活になってしまいます。宗教生活であるということは非常に残念なことで、教会に通いながら礼拝を捧げているにもかかわらず、神を離れて悪魔サタンに囚われて、地獄の運命に囚われて、呪いの運命に囚われているままの状態になるのです。それが宗教生活というものなのです。なので、イエス様を信じると言いながらも、イエス様ご自身がパリサ人におっしゃったように、すべて疲れて重荷を負っている者は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげますとおっしゃったように、信仰生活、人生そのものが重荷となり、疲れてしまうのです。そういう信者、クリスチャンが少なくありません。なぜなのでしょう。自分なりに信者として頑張ろうとしても、イエス様の居場所を勘違いしている限り、宗教生活から逃れることができないので、宗教生活は悪魔サタンに勝つことができないし、むしろ遊ばれることになるので、地獄の力、呪いの力、サタンの力がそのまま動き回るようになるわけです。それでなんでだろうと疑問ばかりになる信者になります。まるでマリアがなぜあなたはこういうことをしたのかと疑問をぶつけるかのような、そういう疑問ばかりの信仰生活が続くようになります。なぜなのでしょう。イエス様の居場所を勘違いしているからなのです。なので神様は、いま信者として召されている私たちが、さまざまな問題、課題、悩み事いろいろあるでしょうが、気になることもたくさんあるでしょうが、まず第一に、あなたにとってイエス様の居場所はどこなのか。あなたにとってイエス様の位置づけは一体どうなのかということをお聞きしていらっしゃるのです。それに答えること、それに応答することが勝利の人生のための優先であり、第一歩なのです。ぜひ今日の礼拝を通してそのような答えと祝福が礼拝を捧げている皆さんひとりひとりの上に豊かに現れることを祈りたいと思います。神様はいまも働いていらっしゃいます。みことばは神であります。神様はみことばをありのまま心に抱いて、みことばに耳を傾けて、みことばを受け入れる人に創造の神の力を現わしていらっしゃいます。皆さんの脳細胞の中ではここまで思っているかもしれません。自分なりに制限を設けて、イエス様を信じててもここまでだろう。これはイエス様でもどうにもならないだろうと自分勝手に制限しているところがあると思うのです。神のみことばが皆さんに入りますと、そのすべてが砕かれて、創造の働きがそこに行われることとなります。礼拝はそのような場所なのです。この礼拝を通してその祝福を味わい、この礼拝を通してオリーブ山の契約とみことばとミッションを握って、皆さんが現場に戻るときにはその現場がマルコのタラップンになるように。怖いものなしです。なんにも言い訳になることなどありません。それを聖書的伝道運動と言

います。絶対不可能だからこそ可能になるものなのです。それがどこから始まるのでしょうか。礼拝を通してスタートします。ぜひレムナント教会の礼拝は、五旬節の神のわざが現れる礼拝になることをともに祈っていききたいと思います。

皆さんの普段の生活の中で御座の祝福を豊かに味わい、それらはあなたがたはしなくてもいいよ。聖霊が臨まれると..それを握ってそれを味わい、御座で豊かになって礼拝に集まりますと、礼拝が最高の祝福になります。それで皆さんを通して必ず暗闇に囚われているたましいを助け生かす福音宣教の働き、救いの働きがなされるはずなのです。神様はいまもそれをなさっていらっしゃるし、そのために地球を動かしていらっしゃる方なのです。なのに、イエス様の居場所を勘違いしているのではその次はありません。まずここなのです。マリアも勘違いしました。天使を通して啓示を受けたにもかかわらず、イエス様の人間的な姿を見て勘違いしていたわけです。イエス様がどこに居るべきなのかを。

## 2. イエス様の居場所がわかれば人生は変わる。

それで神様の恵みによりイエス様の居場所がどこなのか、正しくわかればその人の人生は変わります。

先ほど申し上げましたように、聖書的伝道運動、使徒の働き1章、2章が聖書にあるものではなくて、自分の人生にその通りに現れる、本当の意味で勝利の人生が始まるようになります。いつでしょうか。イエス様の居場所がどこなのか正しく分かった時に。

### 1) イエス様の居場所は神殿(キリスト)

イエス様ご自身がおっしゃいました。イエス様の居場所は、わたしがここの神殿に、父の家に居るべきということを知らなかったのでしょうか。イエス様の居場所は神殿なのです。神殿は何でしょうか。神が人と会う場所です。神様が人とともにおられるための場所です。神が人と会うその約束が何でしょうか。キリストなのです。だから神殿というのは来られるキリストを教えるために神様が許されたものであり、そのキリストがこの世に来られました。イエス様が居るべき場所というのは神殿、つまりキリストとしてそこにいらっしゃるというのです。イエス様の居場所が神殿であるというのは、イエス様は自分の願いを叶えてもらうための誰かではなくて、自分の問題の解決のために来られる方でもなくて、英雄でもヒーローでも宗教の創始者でもなく、イエスはキリストなのです。イエス様が私にとってその場所が神殿、つまりイエス様がキリストと明確に位置づけになるその時に人生は変わります。なぜマリアとヨセフは勘違いをしていたのでしょうか。

### 2) 真の問題がわかれば-キリストでなければ絶対解決出来ない根本問題

もちろん人間的な姿を見てでしょうけれども、彼らは分かっていたのか、あるいは忘れたのか分かりませんが、人間の人類の本当の問題が何かをうっかりしているわけです。自分の問題、家族の問題、人類の問題、時代を超えて人間の本当の問題は、キリストでなければ絶対解決できない根本問題、霊的な問題なのです。世の中には、問題を取り上げ、問題の解決策をあらゆる方面から取り出しています。しかし、それは問題の表面だけを見て頑張ることであって、だから本当の意味での解決にはなりません。人間の言葉では説明できない問題も数多くあります。その裏の裏に誰も分かっていない人の根本の問題、霊的な問題があるわけです。神のかたちに造られた人間が、神に罪を犯して神様を離れた途端にたましいは死んでしまい、その瞬間から悪魔サタンの奴隷になってしまいました。だから偶像崇拜をせざるを得ないし、宗教を求めざるを得ないし、占い頼らざるを得ないし、迷信、お札、イデオロギーなどに溺れるしかありません。絶対にサタンが作り上げたわなから抜け出すことができないのです。自分なりには幸せになるために、問題の解決のために偶像を拝んだり、宗教を求めたり、占いをしてみたり、いろいろやるのですが、やればやるほどどんどんサタンの方にはまっていくような、そういう構図、そのようなシステムなのです。なので幸せになろうとみな願っているのにもかかわらず、自分でも誰にも理解してもらえない霊的な問題を抱えて、それが精神的な問題に現れ、さまざまな病として現れ、人生あらゆる部分が崩壊して行くようになるし、それが永遠のさばきにつながるようになります。自分が永遠にさばかれるだけではなくて、それが子孫三代四代終わることなくずっと遺産として受け継がれることになるわけです。問題が問題ではありません。キリストでないで絶対解決できない根本の問題を抱えていることを忘れていれ

ば、それに心から素直に認めていなければ気づいていなければ、イエス様を信じると告白しながらもその人は宗教生活から逃れることができません。マリアと家族のようにイエス様を探して探して迷い続けるような信仰生活がずっと続くようになってしまいます。

### 3) 創世記 3:15-キリストの約束

だから神様は最初からほかの何も言われなくて、創世記 3:15、女の子孫が生まれて蛇の頭を踏み砕くよ。キリストでなければいけないので、キリストを約束されました。悪魔の頭を踏み砕いて勝利なさる真の王様、人間のすべての罪を身代わりとして背負って解決される真の祭司、神様と出会う道、いのちである真の預言者としてのキリストを約束されたわけです。このキリストでなければ希望などは 1mm たりともありません。このキリストだけに希望があります。他に私たちの中で頭がややこしくなって、気がさまざまなところに散っていく、それはすべて騙されることなのです。本当の問題を知らないか認めていないからです。キリストの他には何も残りません。キリスト一本に絞られて、それだけに希望を託すようになります。そのキリストが実際に世に来られて、その約束が成就されました。

### 3) マタイ 16:16-約束の成就

主は生ける神の御子キリストです。イエス様はまだ少年でしょうけれども、キリストとしてこの世に来られました。女の子孫、その方なのです。イエス様をキリストとして正しく信じて告白しているものであれば、今日の両親のように探しまわるような無駄な動きなどはいらないでしょう。イエス様はおっしゃいました。わたしがここに居るべきということを知らなかったのですかと。いま私たちにイエス様は訴えていらっしゃるのです。あなたが信じているイエス様はキリストであることを知らないのか。イエス様はエレミヤではありません。私たちの何かの問題のために来られたおふだ、お守りのような方ではありません。どこかの宗教で訴えているようなそういう方ではありません。私の願いを叶えてもらうために来られた方でもありません。本当に人の問題が分かったのでしょうか。神様を離れたということが絶体絶命の問題だということを知っているのでしょうか。キリストの他にはありません。誰かが悪い良いもありません。何かのせい誰かのせいもありません。キリストしか見えないようにならないといけません。そのときにまず霊の状態が変わり、霊的な問題が終了することになります。どうしても説明もできない霊的な問題、特にエリートの方に才能ある人の方にそういう問題が多いのです。みな隠しているのです。どこに行っても答えが得られないので。一番偉い人が問題を患っているのです、その人が答えを出すべきなのに自分が患っているのです、どこに行っても答えを求めればよいのでしょうか。教会に行っても言わないのです。なぜ言わないのでしょうか。教会もイエス様の居場所を勘違いしているからです。エレミヤのようにイエス様を扱っているのです。バプテスマのヨハネのようにイエス様を扱っているのです。エリヤのようにイエス様を扱っているのです。

### 4) イエス様の居場所修正による祝福

イエス様は神殿に居るべきキリストなのです。皆さんにとってイエス様の位置づけはどこなのでしょう。皆さんにとってイエス様の居場所はどこなのでしょう。イエス様の居場所が分かって、主は生ける神の御子キリストだと告白した時に、神様は私たちの想像をはるかに上回る、天の御座の祝福を宣言されます。あなたは幸いです。幸いというのは、イエスがキリストだと分かって告白する時に与えられる祝福なのです。ロトに当たったらから幸いではなくて、どこかに合格して就職できたから、誰かに認められるから幸いではなくて、イエスはキリストと告白できたその人が幸いなのです。その人は地獄の運命から解放され、世の流れから解放され、滅びの運命から解放され、悪魔サタンの奴隷から完全に解放されます。イエスの居場所、イエスはキリスト。皆さんもイエスはキリストと賛美もしていつも告白しているかもしれません。今日のメッセージを通して吟味してみてください。なになぜそんなに問題に囚われて泣いたり、なぜ迷い続けるのでしょうか。なぜそんなに何か憎いのでしょうか。イエスはいま神殿にいらっしゃるなくて、皆さんの勝手なその思いの中のどこかにイエス様がいらっしゃるのです。イエス様はそこではありません。イエスはキリストなのです。それでイエス様はおっしゃいました。イエス様をキリストと告白しているものは永遠に滅びることがない、誰も奪うことができない、岩のような永遠のいのちの主人公なのです。だからこそ、この世にいる間にこの岩の上にわたしの教会を建てます。本当にイエス様

をキリストと告白しているものであれば、その人を岩にして、その上に教会が建ちます。つまり、いのちの運動が必ず行われることとなります。その人の能力と環境と関係ありません。これが祝福なのです。ハデスの門も打ち勝つことができません。つまりイエスをキリストと告白しているものは、その人がキリストの御名を呼ぶときに、暗闇と地獄の勢力が砕かれる権威が与えられます。いま信じたばかりでも長い人でも関係ありません。問題はイエス様の居場所が神殿、キリストなのかどうか問題です。何のためにイエス様を信じていらっしゃるのでしょうか。イエス様は皆さんにとって何でしょうか。そこがスタートです。天の御国の鍵をあげます。キリストの御名によって。この地上で祈ると天の扉が開かれる。ここで閉めると天が閉まる祈りの鍵を私たちに与えられました。イエスがキリストと告白している者であれば、今までどういう人生だったのか、今現在、どのような社会的な立場なのか一切関係ありません。それが関係ないということで初代教会は惨めな人間でスタートさせました。惨めだからそれができたという意味ではなくて、そういうことは関係ないと今までの因果応報の法則、世の中のルールなど全部無視していいよ。それは通用しない。当てはまらないよ。神の国においては新しい法則があるよと。誰でもキリストの御名を呼ぶ者は救われ、イエスをキリストと告白する者には岩のような祝福、教会が建てられる。暗闇の力が砕かれて、御座の祝福が動く。そういう祝福が誰にでも許されている。これを知らないからあくせく今まで通りの世の中のものによる争いなどにいつもあけくれて時間を費やして、また感情的に傷ついたり、傷つけたりということばかりではないでしょうか。もちろん最初から完璧ではありません。にもかかわらず、私たちの内側にサタンのやがら、古いものが残っていて、それと戦わないといけません。まず十分戦って勝利できる、今回の宣教大会のテーマ曲のように、もうとっくに勝利したということを持って挑まないといけません。どんなことがあっても。悪魔は皆さんを奪われたので腹が立ってこれ以上できないからちょっかいを出していろいろ暴れるわけです。それに騙されてはいけません。そういうときこそイエスはキリスト、自分が信じているイエスは誰なのか。ちょっかいを出して暴れている悪魔悪霊の力を完全に打ち破って勝利なさった真の王様キリストではないのか。イエスはキリスト、私は幸いな者。これはこれからのいのちの運動のために神様が許されたプロセスなのだ。キリストの御名の権威を試すための格好の材料なのだ。そのように受け止めて戦ってください。イエス様の居場所が分かっているのか、それを勘違いしているのかが、天と地の違いなのです。同じく教会に通っていてもそうなります。ここにいる皆さんはぜひイエス様の居場所を正しく分かって、また皆さんの内側で正して、イエス様の居場所はマリヤとヨセフが勘違いしているような「なぜ私たちと一緒に来ないのか」ではなくて、キリストのところにもいついらいらっしゃらないといけません。イエスはキリスト。地球が半分に分かれてもイエスはキリストなのです。皆さんにどういう問題が襲い掛かってきてもイエスはキリストを死守しないといけません。それは事実なのです。永遠に変わらないことなので。皆さんが一晩中泣いて悩むようなことがあるから、イエスはキリストから別のところに移すわけではありません。イエスはキリストなのです。この戦いなのです。これだけで人生がガラリと変わります。

なので、どういう問題があっても問題に縛られることがないようにしましょう。その問題のゆえに、イエス様に対して間違った理解をしたり、間違った期待などをすること、それを全部やめましょう。あまりにも問題に囚われて、イエス様の居場所がころころ変わるのです。悪魔に遊ばれることなのです。どういう問題があってもイエス様をキリストと告白して、キリストとして迎え入れましょう。そのときにこれが聞こえるのです。すべてを完了したと。この宣言がちゃんと聞こえて、皆さんのものとして握らないといけません。どういう問題があろうが、どういう状況であろうがもう終わった。私にとって問題ではない。偽りの父悪魔は去れ。イエスはキリスト。すべては終わった。完了した。だから何が残るのでしょうか。問題がなければ私がやるべきこと、いま私に許されていることは何でしょうか。問題がああだこうだ、大きい小さい、どうしたらいいかということはいまもうすでに敗北なのです。イエス様の居場所がコロコロ変わっている途中になります。迷っている最中です。しかし、イエス様がキリストであればすべて完了した。何をすればいいのかと悩みもしない。解決もしない。Only 聖霊が臨まれると、よし、御座の祝福で満たされよう。三位一体の神様がともにおられる、その祝福が聖霊によって私に豊かに豊かに満たされるように。ローマの植民地はどうなりますか。あなたがたは知らなくていいよ。柳先生がおっしゃっているように癌に罹っている人は癌ということをおぼろげに御座の祝福に没頭して、それに豊かに満たされることばかり考えて、それを味わうことだけにして、その結果、自分の力と関係なく、使徒の働き2章の門が開かれることを体験しないといけません、その資格と祝福と権威が私たちが許されているのです。25を見ないと

いけません。でもイエス様がキリストの位置にいらっしゃらないので、Only 聖霊が臨まれるとという言葉が分かっているとしてもその祈りに移れないのです。また、それでもあれでも、でも、でもとでもが多いのです。ああいう人間はどうすればいいですか。あれはもう本当に希望がない。あきらめるしかない。変わることはないだろうと思う人間でもそれは私たちの管轄ではありません。神の国のことが現れると、私も変わったのだから変わりますよ。変わらなくても、別に私たちが引かかることでもないし。これがクリスチャンの信仰生活です。いちいち全部自分のレベルで計算して当てはめることではありません。全部忘れるほど御座の祝福が本当であれば、これがあれがということはどうだっていいのではないのでしょうか。これを一回でも体験しないといけません。それをオリーブ山の集中と言います。40日でも10日間でも、とにかくその集中なのです。自分の今までの人生の考え方、生き方、そのすべてを全否定するときが必ず必要なのです。なかなか難しいのでしょうか。なぜ難しいのでしょうか。イエスがキリストでないからです。イエスは本当にキリストです。本当に霊的な問題、人の根本の問題を認めるのでしょうか。キリストしかありません。キリストであればすべて完了しました。問題があろうがなかろうが終わったのです。だから私たちは神の国とその神の国のことが教えられ約束されます。御座の祝福に集中しましょう。これでいいのか...も捨てて。もしそれでうまくいかなかったらうまくいかないまま天国に行けばいいのではないのでしょうか。それを初代教会の祈りと言いますし、それをマルコのタラップンと言います。そこからスタートするのを聖書的な伝道運動と言います。必ずそのスタートになるイエス様の居場所を確かめる、そのような祝福の1週間になることを祈りたいと思います。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。イエス様の居場所は神殿であり、キリストそのところであることを改めて確認して、それに釘を刺すことができるように。それであらゆることを全部取っ払って、すべてを完了した Only 聖霊が臨まれると力を得て、エルサレムから地の果てにまでイエスの証人となる、この言葉だけを握って御座の祝福に集中することができ、25の答えを必ず見ることができるよう。教会、信徒ひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。